

岡山県議会議員

# 太田まさたか

おおた



プロフィール

昭和39年生まれ 59歳  
《役職歴》土木委員会委員長、農林水産委員会委員長、  
総務委員会委員長、県監査委員、県議会副議長  
(選挙区:岡山市北区・加賀郡)

県政だより 令和5年 秋号 VOL.52

編集責任者:太田正孝 岡山市北区延友455 TEL.(086)201-5523

## カーボンニュートラルに挑戦!!

一人ひとりが立ち上がれば変わる。

今夏の日本列島は猛暑と水害に襲われました。県北部も八月の台風七号の通過に伴う大雨で道路の陥没や温泉施設への土砂流入といった被害が多数出ました。被害に遭われた方々には心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧復興に向けて、県議会から後押しをして行くことをお誓い申し上げます。

この異常気象に対して、欧州ではカーボンニュートラルの取組を強化しています。こうした情報は日本に十分伝わってきていません。パリの夏はエアコンがなくとも暮らしていたそうですが、近年の地球温暖化でエアコンが必要になってきています。こうした状況に危機感を持ったパリ市はカーボンニュートラルの取組の一つとして自転車シフトに取り掛かります。



ヴェリブ(自転車貸出制度)

手始めはパリ市の自転車計画(Plan Vélo 2015-2020)づくり。この計画では、自転車通勤五%を二〇二〇年までに十五%にまで高め、自転車通行空間延長を七百kmから千四百kmへと二倍にされました。その実現の主たる手法は、「自転車貸出制度ヴェリブ」と「自転車道のネットワーク化」の二つです。

### ① 自転車利用促進の仕掛けとなる自転車貸出制度ヴェリブについて

システムは岡山市が運営しているモモチャリと基本は同じで

### ② 自転車道のネットワーク化

中心市街地の幹線道路にはほぼ全部自転車通行帯が整備されています。象徴的な箇所は、「シャゼリゼ通り側道から凱旋門のあるエトワール広場へ向かう地下道トンネル」と「ジョルジュ・ポンピドゥー道路 (Voie Georges Pompidou)」です。前者は二車線の自動車専用道路を自転車専用道路に全部変更しています。後者は高速自転車道路網の一部でセーヌ河の双方向の自動車専用道の一車線を通行禁止にして、双方向の自転車専用道にしています。

こうしたもと、街の至る所で



自転車専用道路

セーヌ河の自転車専用道路

自転車利用者の姿を見ることができません。日本の大都市では見ない風景で、市民一人ひとりがカーボンニュートラルに取り組んでいるのです。そしてパリ市は国をも動かしています。マクロン大統領は、

① 自転車道整備目標を二〇二二年末時点の五万七千kmから二〇二七年までに八万kmを整備する

② 障がい者や低所得世帯を対象とした自転車購入の支援補助金を二〇二七年まで延長する  
③ フランス国内の自転車製造台数を二〇二二年八十五万四千台から二〇二七年百四十万台にする

の三点をフランス国民に約束しました。今、取り組みの最中で、EVシフトも自転車同様に日本を遙かに上回るスピードで行っています。街のあちこちに充電スタンドが整備されて、EVが多く走っています。さて、日本でのカーボンニュー

の準備を進めていると表明しました。この条例の大きな狙いは「自転車利用者の自転車保険加入義務化」と「自転車利用者にとって安全な道づくり」の二つです。この条例提出の動きを捉え、私は、先般行われた九月定例県議会で、「自転車道のネットワーク化」と「スマートムーブの県民運動実施」訴えました。知事からは、「スマートムーブをライフスタイルとして定着させることは重要であり、公共交通機関の利用促進や自転車通行空間の整備、シェアサイクルの普及促進等の取組を進めることにより、県民の行動変容を促していきます」との回答を頂きました。知事もスマートムーブに前向き

トラルの取組はどのようなのでしようか。環境省がスマートムーブを国民運動にしようとしています。スマートムーブとは、環境負荷が少ない交通手段を積極的に選択しようとするものです。こうした動きが日本でも取り組まれようとしている時に、岡山県は、八月に「岡山県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例(仮称)」



自転車通行帯

スマートムーブ(岡山市)

岡山県議会議員 太田正孝

です。これからは具体的に進められるかどうかが課題です。県民皆様に積極的に地球環境にやさしい交通手段をパリ市民と同じように選択して頂けるように、自転車道のネットワークを岡山市中心部から郊外に広げること等にもっと取り組んでいかなければなりません。岡山県政がパリ市政と同じように本気なのかどうかが問われています。私は本気で進めていきます。こうした積み重ねがカーボンニュートラルの社会を作る一歩になると信じています。こうした課題の他にも、産業振興、教育再生、河川改修などの課題があります。私は県民の皆様とともに、身体健やかに暮らせる岡山県、笑顔で暮らせる岡山県になるように県政に力いっぱい取り組んでいきます。今号も最後までお読みください。皆様のご健康ご多幸をお祈り申し上げます。

スマートムーブ第一弾として、  
通勤自転車を増やせば、  
CO<sub>2</sub>削減が可能

# 九月定例県議会 会報告



九月十三日に行つた九月定例県議会一般質問で重点を置いたのは、岡山県産特産品ビジネス支援についてです。特産品ビジネスの草分けは山田方谷です。山田方谷の創意工夫を今にも生かすべくと訴えました。県当局との論戦の要旨を皆様に報告します。

交通手段による輸送量当りの二酸化炭素排出量は、二〇一五年度の国土交通省調査データによると、一人が1km移動する時のCO<sub>2</sub>排出量は、マイカーでは145g、バスでは66g、鉄道では20g、自転車や徒歩は勿論0gです。

二〇二〇年国勢調査によると、岡山県の通勤通学時の自転車利用交通分担率は11.85%、全国8位です。岡山県は晴れの国です。伸ばす余地はまだあります。自転車通勤促進県民運動を起こすぐらいの気構えて、自転車通勤者を増やすことに取り組むべきではないかと考えています。

今回、県民の中のマイカー通勤者の一割が自転車通勤に替えると、どれくらいCO<sub>2</sub>削減が出来るか試算しました。試算は次のように行いました。片道5kmをマイカー通勤者が自転車に替えるとCO<sub>2</sub>は1,450g減少。6月の常用労働者数が696,846人。出勤時の自動車負担率が75.2%。単純に掛け算すると、県内マイカー通勤者は524,028人。その一割の人たちが自転車通勤者に替わって、片道の通勤距離が平均5kmとすると、一日のCO<sub>2</sub>削減量は75.9t。年間出勤数を240日として、年換算すると1.82万t。これは二〇一三年度運輸部門CO<sub>2</sub>445万tに對して、これだけで0.4%になります。スマートムーブの効果は、取り組めば取り組むほど高くなります。今回の一般質問では、この試算を議場にいる皆様に紹介しました。

## 海外への県特産品の売り込みについて

**山田方谷**が特産品の売る場所に決めたのは江戸であったのに対して、岡山県が本県特産品のデニムとお酒の売り込み先に狙いに定めたのは来年オリンピックが開催されるフランス。まずデニムの取り組みについて。海外展示会出展補助事業三百万円と服飾専門校が岡山のデニム生地を使用して名を広めていくプロモーション事業七百万円、十二万円の二本立ての戦術を取っている。同じ商品が日本での販売価格の三倍になるフランスにおいて、岡山からの二年後、三年後の目標輸出額を設定されているのか。

目標輸出額とその達成のための実行計画について、どうなっているのか。



**産業労働部長** 目標輸出額の設定まではしていません。

**産業労働部長** 現地に設置した営業デスクと職員が日常的に連絡を取り、実情を踏まえた事業実施に努めている。

また、デスクからは、レストランや食料品店以外に、近年店舗数が増加している酒専門店へのアプローチを強化し販路拡大

こうした要因はフランスの仲介業者任せのような仕事の進め方にあると考える。職員が実態をもっと把握できるような形を取ってビジネス支援するよう仕事の進め方を改善するべきと考えるが、いかがか。また、フランス進出先行各県と岡山県とでフランスでの浸透度に開きがあり、日本酒のフランスへの輸出実績は十年で約五・五倍だが、同じ仲介業者を頼るにしても、調査レポート、販売改善方法の提案を返して頂くべきである。仲介業者からどのような改善案が報告されているのか。

**東南アジア**での岡山産高級フルーツの売込みをしてい。平成十八年度から始められ、今年度は海外ブランド力強化プロモーション事業約千三百万円をかけて、八月下旬に台湾でのPR活動も実施されている。反応は上々であったと報道が伝えている。毎年この国で行っても評価が高いが、「生産量不足」と「安定した流通ルートの未確立」が大きな課題だ。「園地拡大」と「山田方谷のようなビジネス化」をやらなければなりません。高級フルーツの海外販売について三質問する。



**二問目**、生産量を増やす方策についてどのようにお考えか。また、金額・数量ベースで海外での平成十八年度の高級フルーツの販売実績と今年度並びに来年度の目標を教えてください。

## 産業の牽引役について

**バブル崩壊**の所で、人口減少に少社会の入口に立っていたにも関わらず、戦後人口急増期の昭和の「追いつけ追い越せのキャッチアップ」、「合理化・効率化」の手段を目的にする「昭和のやり方」の成功体験が強過ぎたが故にやり方の転換をすることが出来なかつた、もつと言え、山田方谷のようにシステム転換を出来る人が登場しなかつた。

時代の岐路に立つ今、昭和の時代や平成のデフレ時代とは違うデジタルを取り入れた令和のやり方への転換なくして県の産業振興はない。国は半導体産業の強化を柱の一つにして国力を高めようとしているが、岡山県は産業の牽引役をどの分野につくろうとしているのか。

## 人材登用方法について

**板倉勝静**公は総合力が高く「マネージメントに優れている山田方谷をブレインとして登用して藩政改革に成功し、板倉勝静公の人材登用方法は現代にも生かすべき所が多いと思うが、板倉勝静公の人材登用方法から県政に生かそうと思う所はあるか。

**知事** 県では、これまでも職員的能力に応じた適材適所の人事配置を行うとともに、民間企業等での経験を県政に生かす社会人経験者の採用や、高度な専門性が求められるポストに、政策立案能力や専門的な知識、経験を有する外部人材の登用も行ってきている所であるが、今後とも山田方谷の「事の外に立つ」視点を持ち、時代の変化に柔軟に対応できる多様な人材の確保に努めていく。

## カーボンニュートラルの取り組みについて

**まず自転車利用者**に替わって頂く為には、パリで実証されているように自転車通行空間を確保した道路の総延長の延伸が大切である。その延伸に当たっては、自転車通行空間の単路部と交差点部の設計ガイドラインがあれば設計や延伸速度が加速する。福岡市では既に策定済みだが、本県にはない。これは延伸を加速させる為だけでなく、安全面においても必要なことである。一例を出すと、岡山



**土木部長** 具体的目標を示せる状況にはない。自転車ネットワーク計画の策定することにより、安全で快適な自転車通行空間の整備に努めていきたい。

## 特産品のビジネス化に成功した山田方谷に学ぶ!!



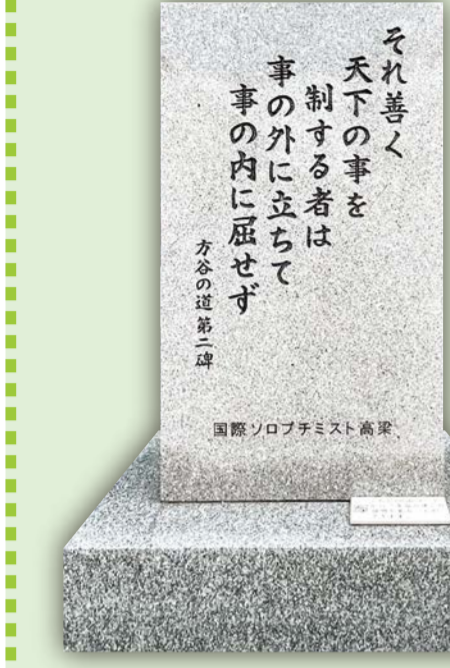
昨年度の県内への企業誘致件数二十七件、投資額約二、一四三億円、雇用者創出数六一三人と伸ばし、県保有産業団地の区画も僅かとなってきました。これからは成果の質も上げ、県内経済の好循環の渦の拡大が期待される。この時に八年間で藩の力を実質十倍にした山田方谷の産業振興に学ぶべきではないかとの思いから、山田方谷の取り組みを参考にすべきだと一般質問の中で県当局に提言しました。その内容を報告します。

**山田方谷**は「事の外に立つ」との教え「事の内に属してはならない、客観的に大局を見よ」との教え、その取組は明快でした。緊縮財政に追われず、産業振興を進めるといふものです。推進役は新組織の撫育方で、開発／生産から販売まで担当。まず注目すべきは新商品開発力。地元で採れる良質の砂鉄から、鍛や釘、種こぎ機、鉄器などの鉄製品の開発。作るだけでなく、工夫を凝らし大幅な性能向上も実現。その代表格が三本の刃がある、新タイプの鍛で、田んぼに刃が深く入り、土の抜けが良く耕作を楽にし、農民を喜ばせた「備中鍛」です。また、釘も、火事が多い江戸では、普請が多く、重宝がられました。ヒット商品はこれら鉄製品に留まらず、煙草や茶、和紙、袖餅子などもヒットし、備中ブランドは大ブランドになりました。

もう一つ注目すべきは、江戸藩邸から各藩の江戸屋敷や近郊の商人への直接営業とお客様の囲い込み。問屋任せが普通の時代に、売り込み先を自分で考え、営業をかけ、自分のお客様を作ったのです。そして、使い込まれて刃がちびた備中鍛の刃を磨き直して、新品同様に性能を取り戻すアフターサービスも行って、お客様の囲い込みをして不動のヒット商品にしたのです。



それ善く、天下の事を制する者は、事の外に立ち、事の内に屈せず。方谷の道第二碑。國語ソロブチニスト高峯。



それ善く、天下の事を制する者は、事の外に立ち、事の内に屈せず。方谷の道第二碑。國語ソロブチニスト高峯。



**農林水産部長** 十八年度のデータはない。令和四年度の輸出額は十一億五千三百八十二万円となっている。

**三問目**、県産高級フルーツを海外で売るに当って、「海外販売のリスクの解消」、「農家収入の向上」、「農家の希望尊重」の三点について、今後どのように取り組んでいく考えなのか。

**農林水産部長** 国内卸売市場を経由しての輸出がほとんどであり、流通に関わる者が輸送や為替のリスクを分担しており、産地のリスク解消は図られていると認識している。

また、輸出拡大により市場の価格形成に好影響をもたらすこととなり、県産ブドウの販売単価が五年間で二十五%上昇するなど、農家収入の向上に結び付けている。

産地では輸出拡大に向けた設備の導入や、直接海外に売込みをかけるなど、さらなる輸出拡大に向けた意欲が高まっている。県では、引き続き、海外でのプロモーションや海外バイヤーの招聘をじつじつととも、現地の消費者ニーズや県産果物に対する評価等を産地にフィードバックすることで、高品質な果物生産につなげ、輸出拡大を図って行く。



**知事** 産業の中核をなす水島コンビナートの企業をはじめ、優れた技術を有し、多様で厚みのあるものづくり企業が集積をしており、これらを強みとして、国のグリーン成長戦略における重要分野に含まれる自動車や半導体AECI-T関連など、今後成長が見込まれる分野について、最新情報の提供や大学等と連携した共同研究への支援などに取り組んでいく。今後とも本県の強みを生かせるこれらの分野について、産業支援機関等とも連携し、県内企業をしっかりと支援していく。



西日本豪雨の砂川改修工事現場  
七月十一日

西日本豪雨で大きな被害があった砂川は国の支援を受けて、急ピッチで改修事業が行われています。



岐阜県鳩山町視察

七月二十五日



大東建託株式会社が新しい部屋ネット街の幸福度&住み続けたい街ランキング二〇二二(三ヶ年連続)で三年連続「街の幸福度(自治体)ランキング」二位になった鳩山町を視察。

このように住民幸福度が高いのは、地域ごとに開かれる健康教室などを通して町民同士のつながりが強いことも要因の一つです。

まるまるひがしにほん  
東日本連携センター視察  
(大宮)  
七月二十六日



東日本の酒蔵からお酒を集めて販売されていました。ユニークな取り組みです。

岡山県洋裁技能協会作品展  
(三ツばる岡山)  
七月二十七日



岡山県の洋裁技能は全国から高評価されています。入賞作品が展示されました。

木堂ふるさとまつり  
(吉備中学校)  
七月二十九日



吉備中学校グラウンドいっぱいになるくらい子どもたちが参加していました

宮内おどり(吉備津神社)  
七月三十日



井原デニムストア視察  
(井原駅構内)  
八月八日



井原産デニムが販売されています

山田方谷記念館見学(高梁市)  
八月八日



山田方谷の功績を色々と学ぶことができます

星空サマーコンサート  
(岡山市北区平田)  
八月十九日



子どもたちの歌声が会場の皆さんを元気にしました

ヒカリカナタ基金総会出席  
(岡山市北区)  
八月二十七日



発展途上国の目の見えない子どもたちに対して、手術代の援助活動をされています。昨年度の事業報告がなされ、今年度の事業計画が示されました。

日本傳少林寺流全日本滴水會館  
全日本空手道選手権大会  
(ジップアリーナ)  
九月十七日



馬屋上大運動会  
九月二十四日



石井学区体育祭  
九月二十四日



かごしま国体壮行式  
(ジップアリーナ)  
九月二十七日

三百五十人の選手団が岡山県の上位入賞を誓い合いました。



編集後記

先日、船団丸立ち上げ舞台裏の話を書く機会に恵まれた。裏話と言っても、この話は「ファーストペンギン」というタイトルでドラマ化されている。内容は、漁業の先行きが厳しくなった島で、シングルマザーと漁師たちが色々な苦難を乗り越え、漁業を再建していく物語である。この話の中に地域活性化のヒントが幾つも詰まっていた。漁業再建のポイント一点のみについて触れる。それは、漁業を知らないが翻訳とコンサルタントしていたシングルマザーと漁師が繋がったことから始まる。彼女は有名なレストランや料亭等への産地直送便事業をスタートさせる。この直接お客様と繋がることから、色々なドラマが起る。漁師たちはこれまで知らなかったお魚一尾何円かを知る。お客様の生の声を聞く機会を得る。そうすると、工夫が生まれて、改善される。商品の魅力が向上する。売り上げが上がる。好循環が生まれたのである。これは船団丸だけの話ではないように思う。

今回一般質問した岡山県産ブドウの海外輸出も、生産者が海外のお客様の声を聞くなどして魅力アップをしたからこそ、年々売上高が上がっている。昨年は十一億円弱までになって、海外輸出がブドウ王国岡山の柱になっている。船団丸の話と通ずる所があると考える。お客様の声には必ず事業再生のヒントがあるはずである。当て嵌まるケースも他にもあるはずである。私もみんなの声をもっと大切にしていきたい。(M・O)